第２課　ペンテコステ（五旬祭）

【暗唱聖句】

「神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです」使徒2：32，33

【今週のテーマ】

ペンテコステとは、過ぎ越しの祭りが終わってから50日目に行われた祝われた五旬祭のことを言います。イスラエルの人々は小麦の収穫の初穂を主のもとに携えて感謝を表しました。このペンテコステの日に弟子たち120人ほどの人たちが集まって祈っていました。それはイエス・キリストが昇天される直前に、聖霊が下るのを祈りつつ待っていなさいとお命じになられたからです。弟子たちは主に言われるままに熱心に祈り始めてから10日目に、今まで誰も経験したことがなかった聖霊降下の経験をするのです。今週はこのペンテコステの経験について詳しく学んでいきます。聖霊降下はこの時代だけの特別な経験ではなく、いまもなお続く主の約束であること、そして聖霊を受けることなくして伝道の進展はないことを学びます。

【日曜日・霊の到来】

聖霊が弟子たちに注がれたことによって、1日に3,000人がバプテスマを受けるという驚くべきことが起こります。そのようなことは未だかつてなかったことでした。弟子たちは自分たちの身に明らかに何か素晴らしいことが起きていることを感じ取ったことでしょう。この経験を通して弟子たちに信仰と勇気が与えられ劇的に変えられていくことになります。そしてそれは彼ら自身が変えられるだけでなく、世界が変えられる経験となり、教会が次々に誕生していくことになります。ペンテコステの日にいったい何が起きたのか、み言葉からもう少し詳しく見てみましょう。

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。 そして、炎のような舌が分かれ現れ、一人一人の上にとどまった」使徒2：1～

聖霊が下ってきたとき、いくつかの不思議なことが伴いました。まずその瞬間、大きな風が吹くような尋常ではない音が鳴り響きました。その物音は外にまで響き渡るもので、これによって周りの人達も何が起きたのかと集まってきたのでした。次に炎のような舌が現れ、一人一人の上に留まりました。聖霊が舌として表現されているのは、聖霊が私たちの言葉を導かれるということを象徴していると思われますが、その舌が炎として描かれているのは、風と炎は聖書の中で、しばしば神の臨在の象徴として描かれているからでしょう。

「そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない」出エジプト3：2

「あなたたちは自らよく注意しなさい。主がホレブで火の中から語られた日、あなたたちは何の形も見なかった」申命記4：15

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」ヨハネ3：18

この聖霊降下の出来事について、バプテスマのヨハネも聖霊を火に例えて、預言的に語っています。

「わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」マタイ3：11

さて、近隣の人達は激しい物音にいったい何ごとが起きたのかと続々と弟子たちのもとに集まってきます。すると彼らはそこでさらに驚くべき光景を目撃するのです。それは聖霊を受けた弟子たちが知るはずのない様々な国の言葉で神様を賛美していたことでした。その言語は「パルティア、メディア、エラム、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア」など様々な種類のものでした。しかし、この不思議な光景を目の当たりにしながらも、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいました。この言葉から聖霊を受けた人々は、まるでお酒に酔っているように恍惚とした状態だったことがわかります。このペンテコステの出来事は旧約時代から預言されており、バプテスマのヨハネも預言し、さらにイエス・キリストの口からも繰り返し語られていました。いくつかのキリストの言葉を抜きだしてみましょう。

「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」ルカ24：49

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」使徒1：8

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる」ヨハネ14：16

聖霊は旧約時代にももちろん存在し、力強く働きましたが、キリストはキリスト教が進展していくためにさらに聖霊の力が必要であることをご存知であり、父なる神に聖霊が降り注がれるようにお願いしてくださったのです。ところで、この聖霊で満たされていることは、一度きりのことではなく、信者の生活の中で継続的に繰り返される経験です。「そのとき、ペトロは聖霊に満たされて言った。「民の議員、また長老の方々～」（使徒4:8）、「パウロとも呼ばれていたサウロは、聖霊に満たされ、魔術師をにらみつけて」（使徒13:9）とあるように、弟子たちはその都度必要なときに聖霊に満たされていたことがわかります。

【月曜日・異言の賜物】

最初に聖霊が注がれたペンテスコテにおいては、知らない国々の言葉が口から溢れてくるという、いわゆる異言という現象を伴いました。異言は霊の賜物の一つとして後に出てきます。このとき異言が与えられたのは、この賜物が最も重要な聖霊を受けたことの証拠だからと考えている人もありますが、むしろこれから外国に福音が聖霊の力によって広がっていくことを象徴していると考えるほうが妥当でしょう。ユダヤ人伝道だけを考えても、当時800万人から1000万人のユダヤ人が外国で生活しており、ユダヤ人の言語であるアラム語を話すことができない人が大勢いたのです。言葉の壁が福音が広がる障壁とならないように異言の賜物が聖霊によって与えられたのでしょう。ただペンテコステの日に弟子たちが語った言葉の意味がわからない人たちもいて、彼らから見ればお酒に酔っているかのように見えたようです。ちなみに、異言の賜物とは別に異言を解く賜物もあります。外国語を話す人とそれを通訳する人がいるのと似ているかもしれません。

ただ、異言については次のような言葉もあります。

「異言を語る者は、人に向かってではなく、神に向かって語っています。それはだれにも分かりません。彼は霊によって神秘を語っているのです」第一コリント14：2

つまり、言葉のわからない外国に住む人たちに福音を語るために異言があるのではなく、神様に向かって語るため異言はあるのです。ペンテコステのときも彼らは周囲の人たちに何かを伝えたくて外国語を語っていたわけれはありませんでした。現代の教会ではこの異言についてほとんど経験されることがないのでまだ私達が知らない聖霊の領域があるということは言えそうです。

【火曜日・ペテロの説教】

聖霊のバプテスマを受けた後、集まってきた群衆に対してペテロは説教をしました。そのとき彼がまず語ったのは、群衆が驚き怪しんでいるペテロたちが体験した経験は、旧約聖書の中にはっきりと預言されていたということでした。

「その後わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し老人は夢を見、若者は幻を見る」ヨエル3：1

ペテロはこのヨエル書の言葉を引用したのですが、ペテロの言葉をよく見てみると、「その後」が「終わりの時に」に変えられていることがわかります。

『神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る』使徒2:17

ヨエルの預言もその後描写を見ると、それは世の終わりと主の裁き、そして神の民の救いと関連付けて聖霊の注ぎが預言されていることがわかります。

「その日、わたしは奴隷となっている男女にもわが霊を注ぐ。天と地に、しるしを示す。それは、血と火と煙の柱である。主の日、大いなる恐るべき日が来る前に太陽は闇に、月は血に変わる。しかし、主の御名を呼ぶ者は皆、救われる。主が言われたようにシオンの山、エルサレムには逃れ場があり、主が呼ばれる残りの者はそこにいる」ヨエル3：2～5

つまり、ペテロは初代教会の切迫感の中で、終わりが近い、主がすぐに戻って来られると確信していたのです。ただペテロの説教そのものは終末を説くものではなく、イエス・キリストがメシアであり、十字架で死なれた後復活されたことなどを強調する内容のものでした。このキリストこそメシアであり、死が蘇られたのだというメッセージがこのときから語られ始められたのは、救いの最終幕が始まったことを意味していたということです。

【水曜日・イエスの高挙】

「それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです」使徒2:33

ペテロは説教の中で酒に酔っているのだという批判に対して朝の9時から酒に酔うものなどいないといって、自分たちの経験が聖霊によるものだと語りました。そしてこの聖霊は、父なる神の右に上げられたことと関連づけて語っています。神の右側というのは権威を象徴しています。つまり、父なる神はキリストが地上でなさったこと、すなわち人となり、人の罪のために十字架にかかって死なれ、そして復活によって勝利をもたらされたことに対してそれを承認し、キリストが父の右の座にお付きになるのを認められたのです。それゆえ約束していた聖霊は勝利の印として雨のように下ってきたのだとペテロは理解していました。なぜなら聖霊によって私達は主のご再臨に対して備え、天に入る準備をすることができるからです。

【木曜日・初穂】

聖霊に満たされて語ったペテロの説教は多くの聴衆の胸を貫きました。「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と（使徒2:37）と尋ねます。それに対してペテロは次のように答えました。

「すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます」使徒2:38

ペテロは群衆たちに対して2つのことを語っています。一つは悔い改めること、もう一つはバプテスマを受けることです。この2つは最も基本的なまず最初にわたしたちがなすべきことです。そうするなら賜物として聖霊を受けると言っています。キリストは聖霊を与えたいと待っておられます。それは神の御業が進展していくためです。私達自身の力に頼るのではなく主に力に頼って主の働きは進展していくのです。そのためには、わたしたちは悔い改めて、主のもとに近づいていくことが求められています。この神様からのこの地上における最大の祝福である聖霊は、悔い改めて神様のもとに立ち返り、主の働きに身を捧げていくものに与えられるのです。